

熊本商工会議所・第35回 経営動向調査

平成17年3月期 結果報告書

業況DI マイナス33.7 対前期比 11.2ポイントの悪化

小売業、卸売業、製造業等において業況の悪化

～ 4月以降の業況好転に、大きな期待感～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値はマイナス33.7となり、前回（平成16年12月期）調査との対比では、マイナス11.2ポイントの悪化となった。特に小売業、卸売業、製造業において業況悪化が見られた。

前回（12月期）調査から業況が好転したのは2業種で、サービス業が14.6（プラス13.3ポイント）、飲食業が38.5（プラス7.7ポイント）となった。

一方、悪化したのは4業種で、小売業が53.2（マイナス27.7ポイント）、製造業が48.3（マイナス24.2ポイント）、建設業（職別・設備）が15.0（マイナス20.0ポイント）、卸売業が46.2（マイナス14.2ポイント）となった。建設業（土木）は+7.1（±0.0ポイント）で好調に推移し、業況に変化は見られなかった。

今回の調査では、小売業、卸売業、製造業等が低調となった一方、建設業（土木）に堅調な動きが見られるなど、前回（12月期）調査が年末の消費の拡大期であったことや、今回が年度末の公共工事等の繁忙期であるなど、業種における季節的な変動要因が大きく影響したのではと推測される業況推移であった。

また、来期見通しについては、建設業（土木）を除く他の業種において好転の期待感が大きい結果となった。

調査対象期間 平成17年1月～3月（平成16年度第4四半期）

調査期間 平成17年3月7日（月）～11日（金）

調査対象数 熊本市内 小規模企業 292事業所

回答数 193事業所（回答率66.1%）

（小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業）

《 業種別回答状況 》

| 対象業種 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率(%) |
|------------|-------|-------|--------|
| 製造業 | 37 | 29 | 78.4 |
| 建設業（土木） | 22 | 14 | 63.6 |
| 建設業（職別・設備） | 34 | 21 | 61.8 |
| 卸売業 | 35 | 27 | 77.1 |
| 小売業 | 71 | 47 | 66.2 |
| 飲食業 | 23 | 13 | 56.5 |
| サービス業 | 70 | 42 | 60.0 |
| 合計 | 292 | 193 | 66.1 |

DI値（業況判断指数）について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(12月期)調査と比較した概況

全業種

製造原価仕入(材料等)単価が僅かに悪化し、販売(受注)・客単価は悪化。売上高が大きく悪化し、採算(営業利益)は、悪化した。全体の業況は悪化となった。

業況D Iの変化 16年12月期 22.5 17年3月期 33.7

製造業

製造原価が僅かに悪化し、販売(受注)単価はほぼ横ばい。売上高が大きく悪化したものの、採算(営業利益)は、僅かに悪化となった。全体の業況は大きく悪化した。

業況D Iの変化 16年12月期 24.1 17年3月期 48.3

建設業(土木)

仕入単価、受注単価ともに悪化。売上高のD I値はプラスながらも悪化し、採算(営業利益)も悪化した。しかし全体の業況は、横ばいであった。

業況D Iの変化 16年12月期 +7.1 17年3月期 +7.1

建設業(職別・設備)

仕入単価が大きく改善したものの、受注単価は大きく悪化。売上高が僅かに悪化し、採算(営業利益)は悪化となった。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 16年12月期 +5.0 17年3月期 15.0

卸売業

仕入単価がほぼ横ばいのなかで、売上単価は大きく悪化。売上高も大きく悪化し、採算(営業利益)は大きく悪化となった。全体の業況は、悪化した。

業況D Iの変化 16年12月期 32.0 17年3月期 46.2

小売業

仕入単価がやや悪化し、客単価は大きく悪化。売上高が悪化し、採算(営業利益)は大きく悪化となった。全体の業況は、大きく悪化した。

業況D Iの変化 16年12月期 25.5 17年3月期 53.2

飲食業

仕入単価、客単価ともに横ばい。売上高が大きく悪化したものの、採算(営業利益)は横ばいとなった。全体の業況は、やや改善した。

業況D Iの変化 16年12月期 46.2 17年3月期 38.5

サービス業

仕入単価(材料等)客単価ともにほぼ横ばい。売上高もほぼ横ばいながら、採算(営業利益)は、やや改善となった。全体の業況は、改善した。

業況D Iの変化 16年12月期 27.9 17年3月期 14.6

業種別の業況一覧

上段 = 対前期比

下段 = 対前年同期比

| 業 種 | 今 回 調 査 (17年3月期) | 前 回 調 査 (16年12月期) | 今回調査との 比較ポイント |
|------------------|---------------------|----------------------|------------------|
| 全 業 種 | 33.7 | 22.5 | 11.2 |
| | 34.7 | 33.9 | 0.8 |
| 製 造 業 | 48.3 | 24.1 | 24.2 |
| | 53.6 | 41.4 | 12.2 |
| 建 設 業 (土 木) | + 7.1 | + 7.1 | ± 0.0 |
| | ± 0.0 | ± 0.0 | ± 0.0 |
| 建 設 業 (職別・設備) | 15.0 | + 5.0 | 20.0 |
| | 20.0 | ± 0.0 | 20.0 |
| 卸 売 業 | 46.2 | 32.0 | 14.2 |
| | 53.8 | 42.3 | 11.5 |
| 小 売 業 | 53.2 | 25.5 | 27.7 |
| | 48.9 | 43.5 | 5.4 |
| 飲 食 業 | 38.5 | 46.2 | + 7.7 |
| | 38.5 | 53.8 | +15.3 |
| サービ業 | 14.6 | 27.9 | +13.3 |
| | 11.9 | 34.1 | +22.2 |

来期(17年4～6月期)の業況見通し

全業種における来期(平成17年4～6月期)の業況見通しDI値は、13.3と今期(17年1～3月)の業況DI値33.7と比較して+20.4ポイントとなり、全体として好転の期待感が大きい業況見通しとなった。

業種別では、来期の業況見通しDI値と今期の業況DI値を比べると、プラスとなった業種は、建設業(土木)を除く卸売業、サービス業、小売業、飲食業、製造業、建設業(職別・設備)の6業種となり、そのなかでも特に卸売業は+33.7ポイントと期待感が大きかった。また、マイナスとなったのは、今期において業況が好調であった建設業(土木)のみの1業種であった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

| 業種 | 来期の業況見込み (17年4～6月期) | 今期の業況 (17年1～3月期) | 今回調査との 比較ポイント |
|----------------|------------------------|---------------------|------------------|
| 全業種 | 13.3 | 33.7 | +20.4 |
| 製造業 | 37.5 | 48.3 | +10.8 |
| 建設業 (土木) | 18.2 | +7.1 | 25.3 |
| 建設業 (職別・設備) | 5.9 | 15.0 | +9.1 |
| 卸売業 | 12.5 | 46.2 | +33.7 |
| 小売業 | 25.6 | 53.2 | +27.6 |
| 飲食業 | 15.4 | 38.5 | +23.1 |
| サービス業 | +13.2 | 14.6 | +27.8 |